

【村の教育目標】村を愛し、より良い生涯と社会を築くために、心豊かに たくましく生きる人間性の育成

【学校の教育目標】 **せいっぱい きたえ のびよう 東っ子**

【教育理念】 **自啓創造**

目指す学校像 **自分を出し切り「笑顔いっぱいの学校」に**

合言葉は「出し切る・見つめる」

子どもたちが安心して 自分をのびのびと出し切り 自分に自信と可能性をもつ

確かな学力

自己充実感 自己肯定感

力を出し切り「できた・わかった・努力した」経験を積み重ねる 自分を見つめる

豊かな心

感動・思いの共有 自己有用感

自分たちの暮らしを見つめ、楽しくよりよい生活を創り出す

健やかな身体

元気さ たくましさ 粘り強さ

暮らしを見つめ、よりよい習慣を身に付け健康な体をつくる

学習指導部

- 出し切る授業の工夫・充実
 - ・少人数を活かす：アウトプット表現・活躍の場 3つの見届け 自己評価(単位時間、単元)
- 学習習慣づくり
 - ・学習姿勢 持ち物 ノート
- 家庭学習の習慣・充実
- 読書習慣づくり (わたしの1冊)

生活指導部

- くらしの向上
 - ・子ども主体の児童会活動(委員会)
 - ・創意工夫する学級活動
 - ・縦割り活動 (遊び 掃除 交流)
- ふるさとを活かした体験活動
- 継続した日常活動
 - ・元気挨拶・なかよし掃除・言葉遣い
 - ・朝、帰りの会 (見通し・振り返り)

健康安全指導部

- 体づくり
 - ・体力向上：遊び 持久走 縄跳
 - ・健康づくり：歯科 食育 生活
- 安全
 - ・命を守る訓練 ・施設管理
- 家庭での働きかけ
 - ・生活習慣づくり 親子料理

(教育活動全体で) **自己をみつめる道徳教育** (重点 A強い意志 B思いやり C郷土を愛する心 D生命の尊重)

(節目となる活動) ・かがやき学習発表会 ・全校登山、ふるさと学習 ・FBC ・運動会

教職員

<子どもへの宣言>
「本気で出し切る姿を全力で応援します」
「互いのよさを広め、いい時間をつくろう」
「人のために尽くす姿を認め励まします」

<互いの自覚>チームワーク・フットワーク
・子どもは皆で育てる 教職員は全校の担任
・学び続け、さらに成長する教職員
・働きがいのある職場環境・同僚性

ネットワーク

信頼関係

安全管理

通学方法
危機管理

『家庭は心の安心・安定のもととなる場』

学校教育への積極的参加、協力 (情報機器の扱い、家庭学習・家庭読書の充実、基本的生活習慣の確立)

『地域は子ども応援団』「ふるさと東白川」子ども会：ふれあい大会・青空友遊研修・卓球大会等
地域行事：郷土歌舞伎、神社祭礼等 放課後子ども教室・スポーツクラブ・文化教室・老人クラブ交流等

温かく安定した家庭と地域が子どもたちの安心をうむ

<評価> ①自己評価 (教員・保護者・児童) ②第三者評価の実施 <改善> ①即対応②次年度へ (即効性と柔軟性)

<検証> 「学校が楽しい」「自分にはよさがある」の全校児童自己評価を100%に!

村の教育目標：村を愛し、よりよい社会を築くために、生涯を通して心豊かにたくましく生きる人間性の育成
教育理念：「自啓創造」：

自啓：自分が無知、物事の道理に詳しくないことを自覚し、何とかその状態から脱却するために
人から教えを受けたり自ら進んで学んだりすること。（スタートは自分を知ることから）

学校の教育目標：「せいっぱい きたえ のびよう 東っ子」

目指す学校像：自分を出し切り「笑顔いっぱい」の学校に

子どもたちが安心して 自分をのびのびと出し切り 自分に自信と可能性をもつ

キーワード：「自分を出し切る」「自分をみつめる」

1、はじめに

○ 東白川小学校教育の根底にあるもの

（歴史と伝統の根底にある精神を受け継いで）

東白川村では、先人が教育に力を注ぎ、村の担い手である児童生徒の生きる力を育むことを目的として、早くから小・中学校を統合し、1小・1中の体制を整えてきた。小学校においては、昭和55年4月1日に開校して40年目となる。越原小、神土小、五加小の3校の歴史と地域の思いを受けてスタートした東白川小学校である。「明日の村を、日本を、世界を背負う子供たちが心身共に健全に育てと願う村の人々の熱い心が、ここに教育の場として理想的な機能を果たす、あらゆる方向から検討しつくされた、すばらしい校舎建設されたのである」（閉校記念誌『わが神土』）この精神は、今でも引き継がれ、子どもの教育に深く寄与している。学校行事への保護者の協力、参加はもちろんのこと、「子どもは地域の宝」として村をあげて最大限の支援を惜しまない地である。わたしたちは、先人が積み上げてきた学校の伝統の根底に流れる精神を受け継ぎながら、さらに力強い歩みを踏み出す31年度にしていく。また、31年度に公表される東白川村第2次教育ビジョンの5年計画の始まりの1年目として取り組みを進める。

（保・小・中の連携で子どもを育てる）

東白川村では、その立地条件から、保育園・小学校・中学校の約12年間の中で、子どもたちには自立しひとり立ちできる力を身に付けさせることが他地区以上に強く望まれている。村教研の場などを利用して保育園、中学校との連携を図りながら見通しをもち、発達段階に応じた力をつけていきたい。それぞれの思いや取り組みを知ることが、子どもたちを理解でき、より適切な指導につながる。

○ 平成31年度 東白川小学校のめざす学校像

児童も教職員も笑顔になれる「笑顔いっぱいの学校」にしたい。子どもたちが笑顔になれば、保護者も地域の人たちもパワーをもらって「笑顔」になる。子どもの力が村の活性化にもつながる。

「笑顔」を生み出す原動力は、児童が「自己充実感・自己肯定感」「自己有用感」「感動・思いの共有」などの思いをもつことから生まれる。児童の次のような言葉は、その思いを表している。

- ・自分の力を出し切った。がんばったなあ。できた。わかった。：「自己充実感」
- ・自分にはこんないいところやすごいところがあるなあ。ぼくにもできるよ。：「自己肯定感」
- ・自分のしたことは、仲間や学校の役に立つんだ。やってよかったなあ。：「自己有用感」
- ・仲間の考えや思いがわかるよ。自分のことのように思えるよ。みんなといると安心するなあ。楽しいなあ。うれしいなあ。あの人ってすごいな。：「感動・思いの共有」

この思いは、「出し切る」にこだわり、全力で取り組んだとき、そしてその自分を振り返り見つめたときにでてくる。そのいごこちのよい場やいい時間の「こちよさ」が「笑顔」を生む。

私たちは、子どもたちにこのような思いがうまれるように、「確かな学力」と「豊かな心」を育成する。あわせて、その基盤となる「元気さ・たくましさ・粘り強さ」をもつ「健やかな身体」を身に付けることも大切にす。子どもたちが安心して、自分のよさをのびのびと出し切ることができることで、目指す学校像である「笑顔いっぱい学校」になる。そのために、教職員はもちろん、地域の方・家庭の保護者が目指す方向を一つにチームとして取り組めるようにしていく。

それぞれの取り組みの中核となるのは、指導部である。各指導部が、目指す姿を明確にして計画的に取り組む。ただし、本校は小規模の学校である。それぞれの取り組みを全員が理解し、思いを共有して一緒に取り組むことが必要となる。教職員は子どもに、指導に対する決意を宣言するとともに、職員同士がチームとして助け合える集団であるための自覚を確認する。取り組みの成果の検証方法として、児童の自己評価「学校が楽しい」「自分にはよさがある」の項目で100%を目指す。

全体構想図では、イメージとして大きな木を示している。木の根元にある「土」は家庭や地域である。温かく安定した家庭や地域が、子どもたちの育つもととなる場所である。その土台の上で、子どもたちは成長する。その成長を助ける役割を教職員が果たす。それぞれの活動、営みを通して、子どもたちが大きく枝を広げ、そして上に向かってぐんぐん伸びていくことを願っている。

2. 平成31年度の方向

「子どもの姿で勝負する」マイナス面は謙虚に振り返り、反省して、次への一步に確実に活かす。逆にプラス面は成果として、共に喜びを分かち合う。平成30年度も、「チーム東白川」で一致団結し、86名の子どもたちを鍛え育んできた。平成31年度も、今までの取り組みを大切に指導にあたる。また、今年度は新学習指導要領への移行期2年目でもある。新学習指導要領の趣旨や内容をふまえながら、準備・研修に努める。

「子どもたちが安心して、自分をのびのびと出し切る笑顔いっぱいの学校」キーワードは「出し切る・みつめる」。活動の方向を示し、精一杯力を出し切って取り組んだのちに、自分を振り返るという営みを大切にする。そこで、出し切る自分に自信と可能性をもてるようにしたい。また、少人数でこそそのメリットを最大限に活かし、出し切る中で笑顔いっぱいの子どもを育てていく。少人数であることのメリットを以下のように考えている。

<子どもにとって>	少人数でこそそのメリット	<教師にとって>
○活躍できる時間と場が多くなる。 ・自己表現できる時間と場が増える。 ・個別の活動が確保できる。		○より確実に見届けることができる。 ○より多く、認め励ますことができる。 ○子どもとのかかわりが多くもてる。

教師は常に次のことを念頭に置いて子どもの指導に当たりたい。

- ① 授業のねらいと評価を明確にした授業を確実に行う（「今日の出し切る」―「ふりかえり」）
- ② 子どもが活躍（自己表現）できる時間と場を確保する
- ③ 教師は確実に見届け励ましを行う（自己評価の視点を身に付けさせる）
- ④ 全教職員で全校の子どもを育てていく

次ページには、「児童」「職員」「家庭・地域」におけるそれぞれの観点について目標を示した。中・長期目標を念頭に置きながら、具体的な動きの中では、短期目標で示した点について取り組む。

経営目標		中・長期目標	短期目標
せい い い っ ぱ い き た え の び よ う 東 っ 子	児童	<p>学力</p> <ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組む態度の育成 対話的な学習で内容が深まる授業 基礎的な知識・技能の定着 思考力・判断力・表現力の育成 <p>体力</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎的な体力の育成・向上 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の活動を大切にし、経験することの楽しさを味わわせる 自分の学習を振り返り、次に活かす自己評価の力を育成する 児童に話す・聞く場をたくさん経験させる。お互いの意見を交流する話し合い活動を意図的に仕組む。 系統性を重視した意図的・計画的な健康教育活動を進める
		<p>豊かな心</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分と他者を大切にし、人のために協力、貢献する態度の育成 地域社会の一員であるという自覚と規範意識の醸成 信頼関係を築きながら建設的に物事を進める態度の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 児童がお互いのよさを認め合える学級集団づくり。 学級同士の関わり、縦割り集団を使った関わりなど、児童が様々な関係をもつように仕組む。 自分を見つめる道徳教育を進める。 地域の方等の人材を活用し、「人とつながる」ことを通して学ぶことができるようにする。
	職員	<p>能力 資質 向上</p> <ul style="list-style-type: none"> やりがいと夢をもちポジティブに取り組む気力 職務の実践課題を明確にもち、その解決に向けて取り組む 同僚とのコミュニケーション能力、互いのよさを認め合える人間関係調整力の向上 授業実践力、生徒指導力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 人事面談を通して、全体の中での個の役割の理解と実践への見直しを確認する。校長としての期待を伝える。 節目における懇談や日頃からの関わりを重視し、報告・連絡・相談しやすい関係づくりをする。 職場の雰囲気づくりを大切にし、互いの理解に努める。 校務分掌組織の運営を合理化する。(少人数に応じる) 研究、研修活動を活性化する。(互いの実践の交流)
	<p>組織 力向 上</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校全体の共通の目標に向かって創造的に取り組む風土の醸成 互いに補完しながらよさを出し合っ て取り組む仕組みづくり 組織対応力、問題解決力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度までの取り組みに「さらに良くするには」という視点を加えて分掌に関わる提案をできるようにする。 打ち合わせの場で、児童に関わる情報の交流を進め、共通理解をする。 情報をオープンにし、問題はみんなで解決する。職員は全校の担任であるという意識で子どもに対応する。 	
家庭 地域	<p>連携 理解 協力 強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報収集・分析・編集・発信力の向上 教育活動や学校情報の公開、学校評価の充実の継続 家庭・地域との連携継続 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育活動のPR等、広報活動を積極的に行う。 学校公開の場を活かし、実践についての理解を図る。 地域の人材との連携を継続し、協力をいただく。 	

経営の強み	← 経営資源の実情 →	経営の弱み
<ul style="list-style-type: none"> 出し切るを合言葉にした授業ができる。 自己表現できる児童の姿が認められた。 アイデアのある活動を仕組むことで楽しみながら活動している。 職員の協力体制、雰囲気が良い。 保護者、地域の学校への協力度は高い。 		<ul style="list-style-type: none"> 職員の異動により現状の維持が課題となる。 話すことが苦手であるという児童がいる。 中核となる職員の力に頼る部分が多い。 職員が少ないことで一人一人への負担が大きい。 校舎の老朽化に伴う修繕等が必要。

3. 目指す学校像・3つの柱からみた子ども像とその実現のための重点項目

めざす学校像 **自分を出し切り「笑顔いっぱいの学校」に**
 子どもたちが安心して **自分をのびのびと出し切り** 自分に自信と可能性をもつ



笑顔を生み出すもと	目指す子どもの姿	具現化のための重点 【○教職員 □家庭・地域】
確かな学力	自己充実感 授業の中で、「できた・わかった・努力した」経験を積み重ねる 自己肯定感 自分の学び方を振り返り、よさや可能性を見つける。次への課題をもつ	○授業の工夫・改善 ・少人数のメリットを活かす：アウトプットを増やす 表現の場（話す・聞く）活躍の場をつくる 丁寧な見届け ・学習過程：話し合いの場の設定 めあて・評価の場の設定 自己評価(単位時間・単元) ○学習習慣づくり：基本をおさえる ・整理整頓 ・持ち物 ・学習姿勢 ・ノートづくり □家庭学習の習慣：家庭と連携して ・家庭への働きかけ：懇談会等での説明 良い姿の紹介 ○□読書習慣：興味関心を高める工夫 ・家庭での読書の時間づくり ・「わたしの1冊」 ○□タブレットの有効活用：教育委員会と連携して
核：学習指導部		
豊かな心	感動・思いの共有 共感 自己有用感	○□体験：東白川小でこそその体験を活かす 場としての東白川村 地域の人材の協力 ・自然、地域を活かしたふるさと体験活動（登山・川・花木） ・自然との関わり、継続することの価値 → FBC ・「すごいね」「がんばったね」「楽しかったね」という感動体験 ○縦割り活動：少人数を活かす ・なかよしグループ（遊び 掃除 心の交流） ・他学年との授業交流 ○日常活動：元気挨拶 なかよし掃除 温かい言葉遣い、接し方 ・朝の会、帰りの会の時間の工夫（見通し、振り返り） ○児童会活動：主体的に児童が企画・運営する集会、委員会活動 ・「出てきて ヒーローヒロイン」 ・くらしを見つめ、みんなで取り組むキャンペーン活動 ○人権福祉教育の充実
核：生活指導部		
健やかな身体	元気さ たくましさ 粘り強さ	○体づくり ・体力の向上：遊び 縄跳び・持久走 ・健康づくり：歯科衛生 食育 生活習慣 ○安全 ・知識・実践の場：命を守る訓練 ・施設、設備の安全管理 □家庭での働きかけ：生活習慣づくりの協力・見届け ・食育：親子クッキング 食の見直し
核：健康安全指導部		

(1) 「確かな学力」の育成

- ① 少人数のメリットを活かした「出し切る」授業の積み上げ
 - ・「話す・聞く」の表現の場、活躍の場を設定した授業を行う。
 - ・「今日の出し切る」→評価規準を子どもも意識し、どの子ども到達できるようにする
 - ・終末に「今日の出し切る」について自己評価する。→定着状況の届けをその場で確実に行う。
 - ・単位時間、単元の節目に、自分の学習についての振り返りをする。
→自分の変容、学んだ内容、できるようになったこと、学び方で身に付いたこと
- ② 「主体的・対話的で深い学び」につながる授業展開のあり方を追究し、授業改善を図る。一人一人が自分の考えを持ち、練り合う学習活動ができる力をつける。
 - ・豊かな言語活動を生み出すもととなる体験活動を充実させる。(理解する、感じる、考える)
 - ・見通しをもたせ、子どもの意識の流れに応じた授業展開の工夫をする。
 - ・人の話を考えと理由に分けて聞く。自分の考え、理由と比べ、同じところ違うところを整理して聞く。自分にない面を人から学ぶ。
 - ・授業のはじめと終わりで、何が変わったか、何を得たのか、自分を振り返る。
- ③ 学習規律の基本となる「聞くこと」をもとに「話す力」「書く力」のレベルアップを図る。
 - ・特に「言語活動」に力点を置き、考えを広げ、つなげ、伝えられる子どもに育てる。
 - ・聞く人に届く声、相手に伝わる声で自分の考えを堂々と話す。
 - ・考えたことのあしあとが残るノートづくり(読解力と表現力を高める。)
- ④ 自学を目指した「進んで取り組む家庭学習」の習慣化に保護者と共に取り組む。
 - ・保護者と連携した習慣化の取り組み。特に、習慣化していない子どもへの個別支援。
 - ・自己学習力としての、自主学習課題見つけ、自己点検、自己採点習慣の確立。
 - ・Webシステムの積極的活用。
 - ・朝の会のスキルアップにより、より確実な学習内容の定着を図る。
- ⑤ 「本は友だち 心の栄養」読書が大好きな東っ子を育てる。
 - ・良本との出会いの場を増やす。図書委員会・教師から本の紹介。
 - ・年間を通した読書経験から、「わたしの1冊」選び。
 - ・各学年の学習に結びついた図書館活用。(調べ学習・本は友だち・季節コーナー等)☆親子(家庭)読書の推進 (PTAと共に)
- ⑥ タブレットの有効活用→使いこなす教師、子どもに。
 - ・情報モラルに関わる指導(児童・保護者へ)を継続する。

(2) 「豊かな心」の育成

自分たちのくらしを見つめ、楽しくよりよい生活を創り出す

- ① ふるさとを活かした体験活動(東白川でこそ)
 - ・自然、地域を活かす(登山・白川・花づくり) ・地域人材を活かす
- ② 異学年集団活動(第34回全校登山「尾城山」・全校なかよし遊び・なかよしグループ掃除/通学班等)を高学年と低学年をつなぐ大切な活動として継続しその意義づけをする。
- ③ 挨拶、礼儀正しさ、正しい言葉づかいについて知り、実践できるように働きかけをする。
 - ・キーワード「いつでも、どこでも、だれにでも」気持ちのよい挨拶のできる子に。
 - ・「呼び捨て」にしない指導、温かい言葉を使うことを徹底する。
- ④ 各種委員会、児童集会で創造的な活動を展開する。
 - ・各委員会のキャンペーン活動と日常活動。(くらしをみつめ、みんなで取り組む)
 - ・児童集会の充実「出てきてヒーロー・ヒロイン」

- ③ 先手の生徒指導を目指し、気になる子ども、要援助児童などへの意図的教育相談、認め励ましができる場の設定をする。
- ・学期ごとの相談週間の設定と日常的なチャンスを生かした相談活動の実施
 - ・子ども情報を「東っ子交流」等で特に大切にし、共通理解を図る。
 - ・保護者との積極的な情報交流や懇談による相談活動（第1は「顔をあわせて」）
 - ・「心の健康度調査」による要援助児童の確認と相談活動
 - ・「東白川小学校いじめ防止基本方針」に基づく年間計画案参照（HPにUP済）
 - ・特に、課題がある通学班、掃除班の実態に合わせた指導を積極的に行う。
- ④ 人権福祉教育の充実を図る。（人権推進校事業に指定あり）：「人権の花運動」
- ・集会等で福祉や人権意識向上に関わる話、委員会活動を行う。「人権の花運動」に参加し、人権に関わる運動を推進することで「笑顔いっぱい学校」をめざす。（年間を通して）
- 東白川小「5つの約束」の徹底を図る。
- （挨拶・言葉づかい 正しい姿勢 進んで仕事 みんなの約束を守る 整理整頓）

（3）「健やかな体」の育成

- ① すすんで元気に運動できる子を育てるために、体育授業及びすこやかタイム、昼休みにおける運動の創意工夫をする。
- ② 歯科衛生、食育、生活習慣づくりについて、計画的に取り組み、健康づくりをすすめる。
- ③ 命を大切にす意識を高めるために防災教育を推進する。
- ・地域における危険箇所の把握。分団会を利用した防災安全教育。東日本大震災を心に刻む創意工夫ある活動を。健康で安全な生活をするため、校内外の教育環境を整える。
 - ・「命を守る訓練」の実施→予想される事態に対応できる力をつける。
 - ・安全点検及び日常点検 ・校務的な修理、営繕 ・職員緊急時対応訓練
 - ・保小中緊急下校（降園）訓練 5月24日（金）予定
- ④ 自分の生活をみつめ、生活習慣を整えることの大切さ（意味指導）を指導する。家庭とも連携を図り、自ら実践できる子どもを目指す。（食の授業・食に関する親子体験活動・食に関する広報活動・給食時間を利用した食育や個別指導・子どもの手(委員会)による健康の取組）

4. 全職員での共通理解項目

☆学校における危機管理について（全職員）

東白川村は、山間へき地という特性から以下の点に留意する必要がある。

- ① 救急車の要請には躊躇しない
- 地域医療の中心となる「東白川村国保診療所」は内科的な診療が中心であり、大けが等の外科的な診療は受け入れられない場合がある。従って大けがの場合は、躊躇することなく救急車を要請する。
- ② 地域性を考慮した対応に心がけること
- 山間部であることで雷雨情報や大雪情報、大雨による河川の氾濫、学校付近だけでなく大明神等、標高の高い地域に帰る子どもやバス停から一人で帰らざるを得ない子どもがいることを忘れない。また、年間を通して熊の出没が数回はあること、猿の群れが通学路付近に出ること、マムシやヤマカガシ、スズメバチ等毒を持っている生物が身近にいることも忘れないこと。
- ③ インフルエンザの対応
- 冬場のインフルエンザ流行期においては、学級単位が予防の基本単位ではあるが、東白川小学校の場合、スクールバスで通学すること、またランチルームでの給食が毎日あることで他学年への感染の可能性が高くなる状況である。学校閉鎖処置についても救急車の要請同様、思い切った判断をする。

④ 広い校舎に少人数

オープンスクールとしてスタートした関係で普通の学校と比べ廊下部分がゆとりのあるスペースとなっている。また、山斜面を利用してあるため北舎への通路が傾斜している。そのような理由からも校内で勢いがついて走るなど場所を考えずに外遊び的なことをする様子もある。気を付けたいのは、職員室から教室までの距離が離れているため子どもがけがをした場合、その確認が遅れるというリスクがあることである。

★特別支援教育・教師間、保護者との連携

- ① 特別支援学級在籍児、要支援児童に対して、校内教育支援委員会等で話題にし、計画的にケース会議や保護者との懇談を行い、成長と課題の確認、今後の支援方針、校内や家庭での支援のあり方、保護者との進路に関わる相談など、親身に対応できるようにする。
- ② 普通学級において支援が必要な子どもについても、村支援員伊藤先生の動きを明確にして指導する。短期及び長期的な個別の支援計画（見通し）を作成し目標を持って支援していく体制を作る。

★会議の目的(ねらい)を明確に持ち、時間のスリム化を図る

- ① 企画委員会（校長・教頭・教務）による三者会議において指導重点を明確にしなが、校長の方針を具現化できるように指導部長に下ろしていく。
 - ② 指導部長は、指導部会において十分な検討をしポイントを絞った職員会提案ができるようにする。
 - ③ 行事を行ったときには、行事のねらいがどの程度達成できたかについて、職員から反省（意見）を求め、次年度へ活かしていけるまとめを指導部会において話し合う。それを次に活かす。
- *集会活動、給食時間、下校整列時を活用し、三指導部会を中心にした指導の徹底を図る。また、この機会を子どものきたえの場の一つとしてとらえ、自己管理に向けた方向で指導し、委員会などの活動で子どもが活躍できるようにする。

★保護者、地域との連携を強化する（全職員） 地域行事での子どもたちの姿(活躍)も見届けたい！

- ① 3本柱の取組を確実なものにし、また保護者への必要な情報や依頼を行い、共に子育てに取り組む。保護者との信頼関係を築くために、学校の情報発信を継続的・積極的に行う。
 - ・校報の発行・学級通信の定期的発行（週1でよい。）、HPの情報発信、CATVとの連携など。
 - ・保護者との情報交流、意見交流の場づくり（家庭教育学級、地区懇談会等）
- ② 地域組織、保護者、教育委員会との連携の中で進める課題
 - ☆非常災害に対応した登下校（保小中連携） ☆少人数化に伴う諸行事、通学班の見直し 等
- ③ PTAと連携した生活習慣改善の取り組みを行う。
 - ・早寝、早起き、余裕ある朝ご飯、排便、就寝前のノーマディアを主に取り組む。（健安部）
 - ・テレビやゲーム時間の見直し、PC等に対する家庭の約束づくり（生活指導部、PTA本部との連携）。
 - ・学習習慣の確立をめざす指導の徹底（学習指導部）
- ④ 「東白川大好きっ子」を育成するため「ふるさと学習」をさらに充実させる。
 - 1 2年間を見通した教育課程整備と地域講師等の活用（地域との双方向の連携強化）
 - 他地域との交流を模索し外から見た村のよさと課題見つけ
 - 1年生：身近な生き物、自然とのふれあい。保育園との交流。お年寄りとの交流
 - 2年生：身近な人々、地域とのふれあい。生活科フェスティバル（1年も）
 - 3年生：地域を知る。村の特産物（白川茶・トマトなど）の学習を中心に。
 - 4年生：面積の多くを占める山林について知り、白川と海のつながりを学ぶ。城東小交流。
 - 5年生：米作り。FBCを中心とした自然との共存による生き方を学ぶ。
 - 6年生：福祉の学習（高齢者・障がい者）を通して、福祉人権学習を深める。
 - 5、6年生が中心となって、FBCに挑戦する。

